

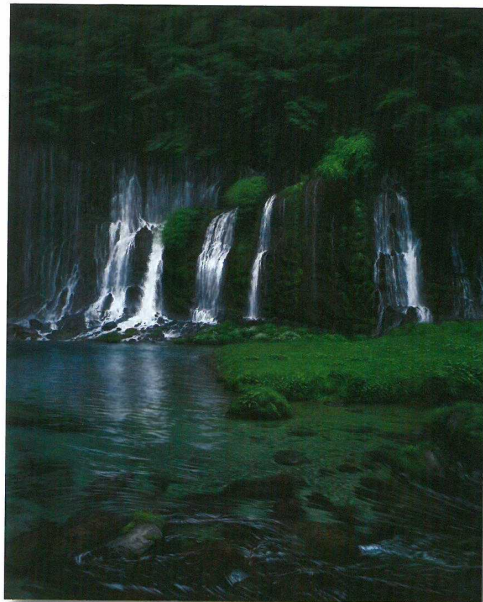
日吉町郷土資料館で吉田伊佐展開催

平成26年3月15日から、南丹市日吉町郷土資料館で吉田伊佐（よしだいさ）展が開催されています。

吉田氏は日吉町出身の洋画家で、風景画、特に池や滝、溪流など水辺を描き続けています。氏は日吉ダム建設に伴い住み慣れた故郷を離れた移転者であり、今ではもう見ることの出来ない天若（あまわか）の風景を多数描いています。

今回は、氏が学生時代から現代に至るまでの役100点の作品を展示しています。この中には、日吉ダム管理所の玄関に飾られている大作など2点も展示されています。

日本の原風景、湖底に消えた故郷を感じてみてはいかがでしょうか。場所は府民の森ひよし（スチールの森京都）、開催は5月18日まで、休館日は毎週火・水曜日です。皆さんの来場をお待ちしています。



「雄流」2010年（第42回日展 特選）／個人展

吉田伊佐

—日本の原風景を追って—展

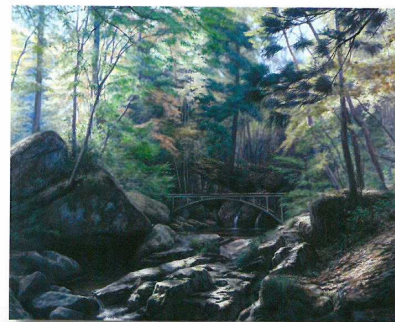
平成二十五年度特別展

2014年
3月15日[土] ▶ 5月18日[日]

- 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日 毎週火・水曜日（5月6日は開館）、5月8日
- 入館料 大人200円／高・大学生150円／小・中学生100円
※20名以上の団体は2割引 ※身障者手帳等をお持ちの方、及びその介護者お一人まで半額
※南丹市の小・中学校の児童・生徒は入館無料



南丹市日吉町郷土資料館
〒629-0334 京都府南丹市日吉町天若登地谷7番地 TEL & FAX 0771-72-1130



「悠閑の溪谷」2014年／作家展



「新緑とせせらぎ」2006年／アートギャラリー・マイミ

Isa Yoshida

Isa Yoshida

吉田伊佐展

日本の原風景を追って

昭和62年(1987)3月1日、日吉ダム建設に伴う移転者の離村式が行われてから、27年の月日が流れました。かつての故郷を知る人々も世代交代を重ね、住み慣れた土地の情景を知る人たちが少なくなってきました。

平成12年4月に開館した当館では、日吉ダム建設に伴い移転対象となった日吉町中・天若の暮らしや文化を後世に伝えるため、これまで各種の取り組みを行ってきました。

今回の展示会では、日本の自然、特に池や滝、溪流など水辺を描き続ける画家として、日展や白日会などを中心に活躍されている日吉町出身の吉田伊佐氏の作品を紹介いたします。展示作品としては、学生時代や画家を志した頃のものを含め、現代に至るまでのあゆみを振り返る、総数約100点余となります。

吉田氏の作品からは、手つかずの自然、特に水辺を中心とした構図の中に、失ったふるさとの風景を感じとることができます。本展が、湖底に消えた故郷をふり返るきっかけになれば幸いです。

略歴	1959年	京都府船井郡日吉町(現在の南丹市)に生まれる。
	1983年	京都市立芸術大学美術学部美術科卒業
	1999年	～全国の百貨店で個展を中心に発表
	2005年	西宮神社末社住吉神社に御鎮座二百年記念絵画奉納
	2009年	第85回記念白日会展初出品(『清和寧寂』) 会友推挙 第41回日展初出品(『草萌』) 初入選
	2010年	第86回白日会展(『陽光の中の木立ち』) 準会員推挙 第42回日展(『随樹』) 入選
	2011年	第87回白日会展(『蒼流』) 梅田画廊賞・準会員奨励賞 受賞 会員推挙 第43回日展(『雄流』) 特選
	2012年	第44回日展(『秋光彩渾』) 無鑑査出品
	2013年	第45回日展(『琉璃の溪谷』) 入選
	現在	白日会会員 日展会友 日本美術家連盟会員 京都府亀岡市在住



南丹市日吉町郷土資料館

京都府南丹市日吉町天若登地谷7番地 TEL・FAX 0771(72)1130
http://www.be.city.nantan.kyoto.jp/hiyoshi-shiryokan/

交通案内 ▶▶ 京都縦貫自動車道「園部IC」左折、府道19号園部平屋線を直進、南丹市日吉町(日吉大橋)を右折、府道の森ひよし内。

※電車でお越しの場合、日吉駅からのバスの本数に限りがありますのでご注意ください



①『忘れ得ぬ故郷』1998年 ②『るり溪』1992～1993年頃 ③『牛頭尊とリンゴの静物』1987～1988年 ④『下鴨神社参道』1985～1986年 ⑤『小菊と青い花びら』1993～1994年 ⑥『マリア(フレスコ画・模写)』1981年 ⑦『自画像』1981年 ※①個人蔵、②～⑦作家蔵